

(福山市教育委員会 HP より)

創 Create

2019年(令和元年)6月7日
城南中学校区
学力向上推進地域通信
研究推進教員 小野大助
第40号(城南中)

研究主題 「義務教育9年間の系統的な学びをつくる研究」
～【書く・伝える】から考動力をはぐくむ授業づくり(2年次)～

○ 第1回 学力向上推進協議会 城南中

協議会報告

【広島県教育委員会 義務教育指導課 小池 指導主事 講話】

1 学力向上推進地域事業の取組について

(1) 重点取組の改善・充実 (2) 日々の授業への浸透 (3) 学力に課題のある児童・生徒への支援
※特に個に注目している事業だということ認識する

(4) 普及することも役割としてある

→①城南中学校区の組織作り・・・定例会

②重点取組項目の変更・・・効果がある取組を重点的に行う

③アドバイザーの活用・・・兄弟姉妹関係に注目していることや登校させる取組

2 授業について

(1) 学級づくりができている 安心して「わからない」が言える
良い課題, 良い発問をしても主体的とならない場合が多い

(2) 個別の指導計画の充実

①個への手立てはどうだったのか

②抽出生徒のテスト等を共有できているか

③どんな手立てをして, どんな効果があるのか



例 国語の時間に情景がイメージできていない生徒がいたとして, その子に対して, 形や絵で示したところ, その子ができた。その子のことを個別の指導計画へ記入しておく, 他の教員がそれを見て, 数学でも具体物を使って授業を行うとわかりやすかったなどの共有ができる。また, 効果があった取り組みが見えるので, 改善ができる。個への支援ができる。

☆この事業は, 一行も書けなかった児童・生徒が書けるようになった。教科書を持ってこなかった児童・生徒が持ってくるようになった。という変容を読み取り改善していく事業であること。さまざまな子(個)がいて当たり前だということを今一度認識することが大事になってくる。



2 城南中 校区授業研 川口小(国語) & 城南中(社会)

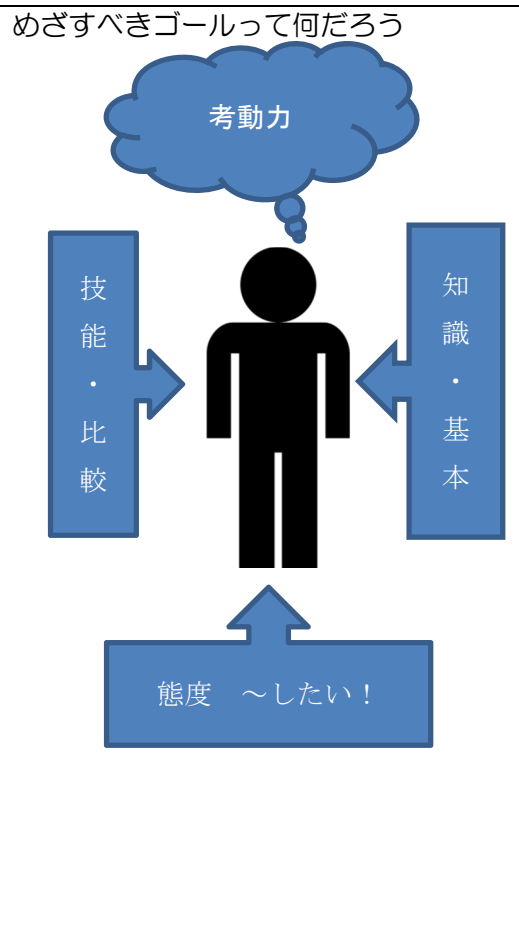
(1) 協議会

○子どもの動きに注目し、「子ども主体の学び」に向かうときに見える姿とは何か

11R地理 気候帯を調べる
 【良い】
 子どもが最後まで考え続けることができていた
 子どもが自由に意見を言える雰囲気
 教師から教えない、考えさせる
 冷帯とは・・・生徒が自ら教科書や資料を開いて調べている 調べ始めるのを待つ教師
 「質問があります」疑問に思ったことをそのままにせず質問している生徒
 自分の考えを教科書のいろいろな資料を活用して説明している生徒
 生徒同士で質疑応答していた場面が主体的！
 そもそも気温が高くてどれくらいなのかな？という生徒の疑問
 自分で教科書をめくる振り返る 自分で資料を探している
 活発に発言したり自分の意見を言える
 疑問点をどんどん口に出してつなげていく
 生徒は自分の意見や他者の意見を比較して考えを深めていた
 【改善】
 結局雨温図の読み取りはできていたのか
 説明の内容が言葉だけなのでわかりにくい生徒がいるのでは？→実物投影機を活用して説明させる
 教科の枠があり思考がストップするのが残念・・・



○城南校区で目指すべき「学び」とは何か



36R歴史 ファシストについて
 【良い】
 教師が教える授業ではなく考えさせていた
 各国をまとめる時間を子どもたちに決めさせて集中していた
 1人1人に役割がありスムーズだった
 自分で調べる→聞き取る→メモする
 担当制にして各自責任を持たせる→集中して読み取る→交流場面では聞き取る力やまとめる力がつく
 【改善】
 わからない子が「わからない」といえる環境作り
 自然に学び合う姿が見れば良い→話す子が限られている
 学んだことを現代のことや自分たちのこととつなげられたら良い
 時間設定をしなくても良いのでは？途中で話し合いをやめる必要があるため
 導入に工夫があったら良かった→学ぶ意義(どれくらいの生徒が学びたいと思ったか)

子どもたちが「考える」って何だろう
 考える＝教科書の中身を読み取ってまとめる である必要はないのでは？
 ここから先にある「学び」を見つけたい



授業者の感想
 今まで受けたことのないような授業をつくり、今までやったことのないような授業をつくり・・・本当に悩むところですが一つだけ言えることは、これから生きる彼らが待ち受ける社会は不透明なものだと思います。その不透明な社会に立ち向かえる力だけは社会科で少しでもつけていけたらと思います。